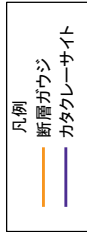
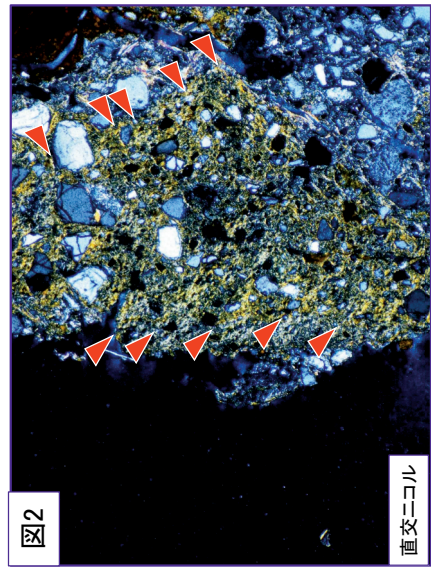
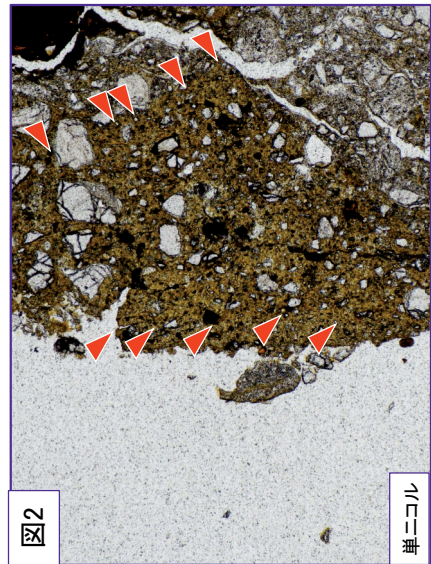
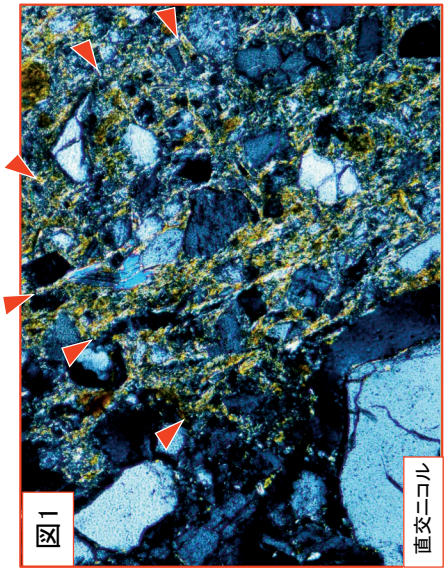
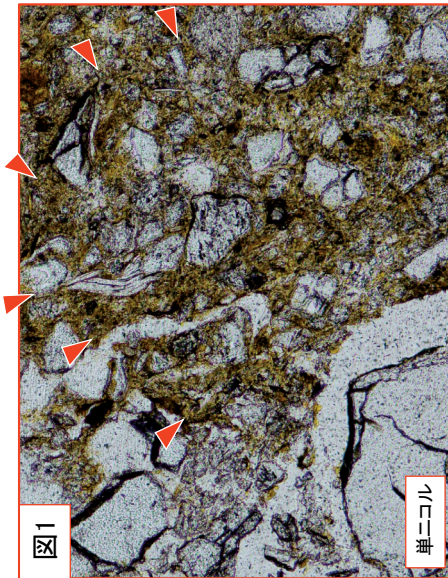
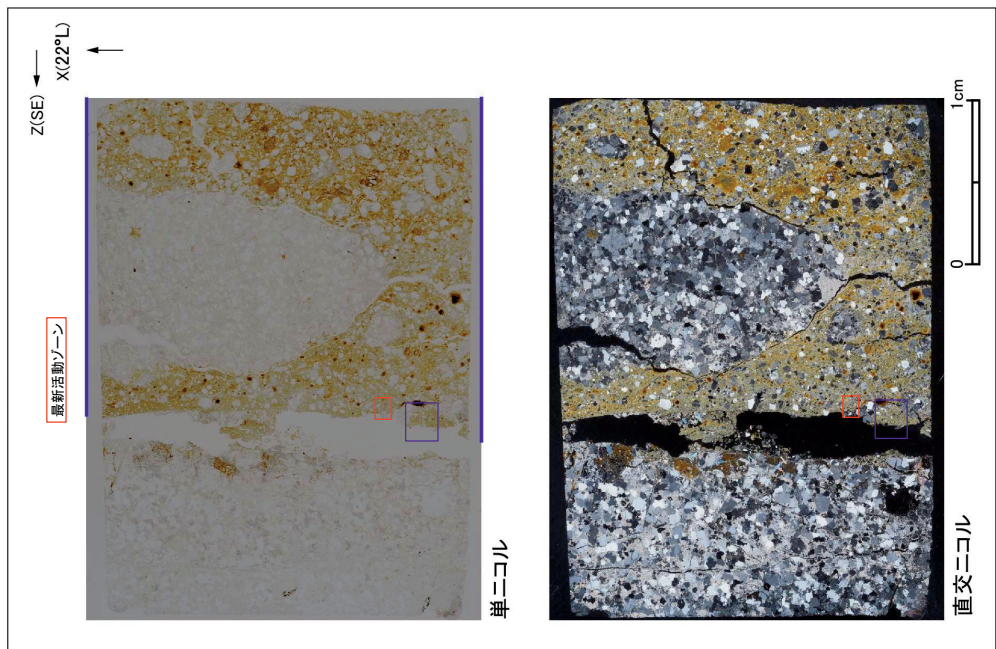


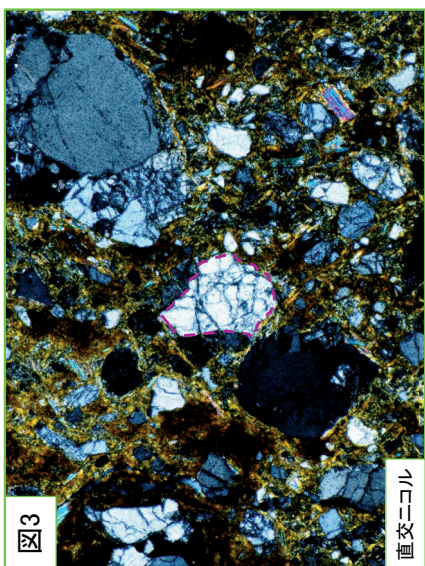
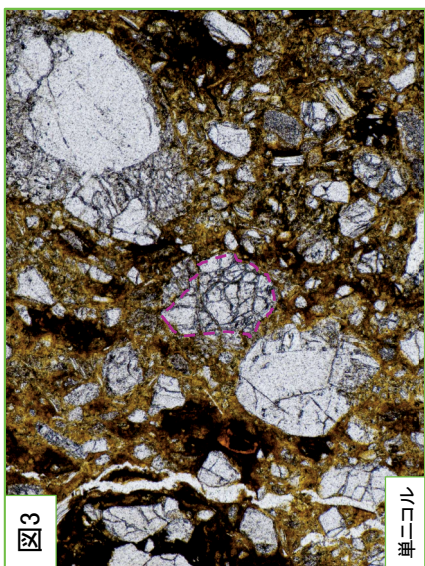
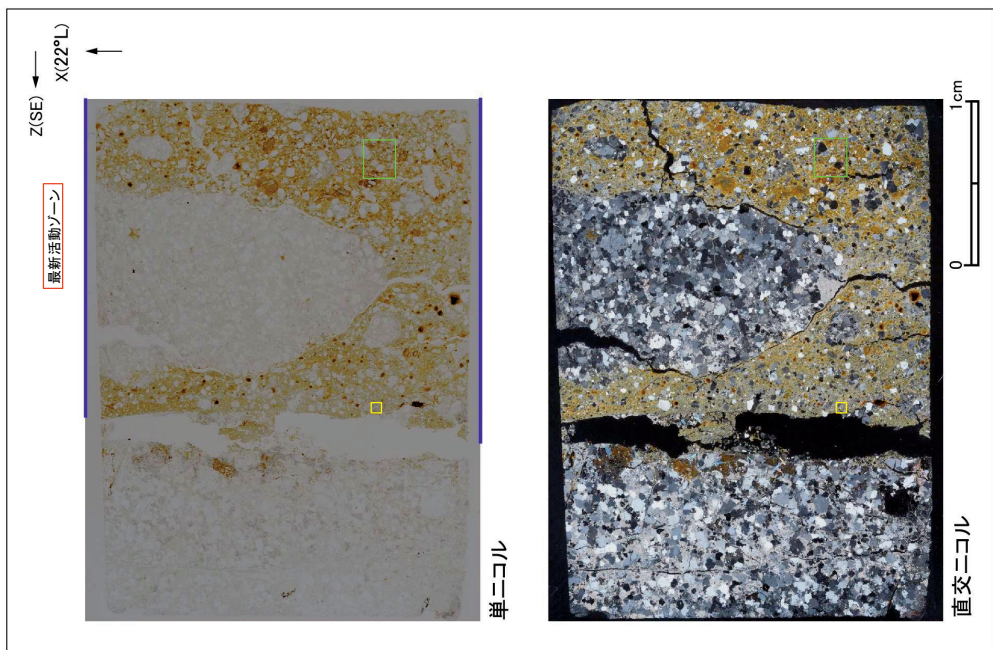
最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。

- 基質は岩片を主体とし、粘土鉱物が格子状に分布する。(図1, 図2)
- 角ばった岩片が多い。(図1)

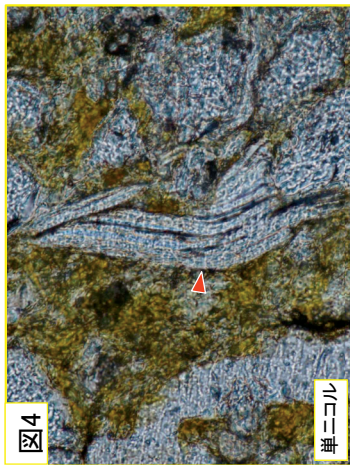


赤三角印方向は粘土鉱物の配列方向を示す

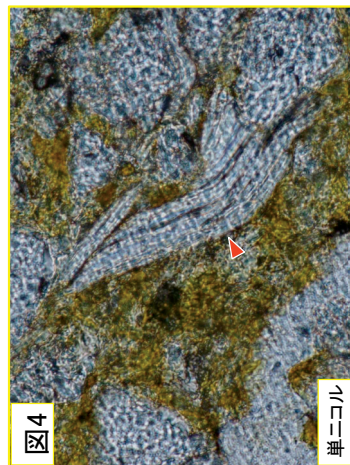
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- ジグゾー状の角礫群が認められる。(図3)
- 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。(図4)



破線はジグゾー状の角礫群の範囲を示す

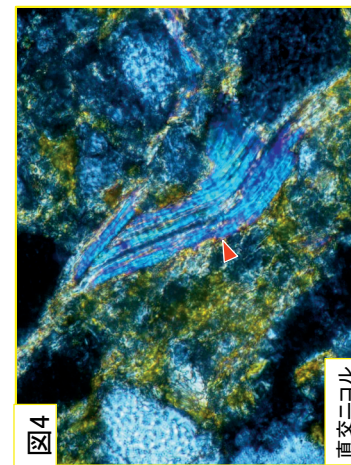
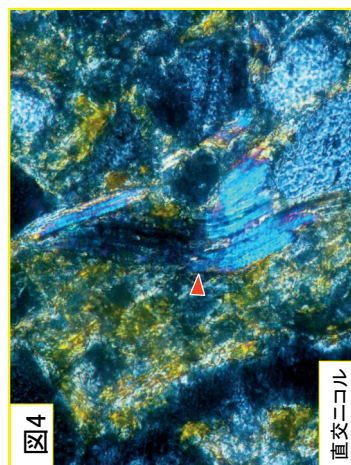


赤三角は屈曲箇所を示す



赤三角は屈曲箇所を示す

↑
ステージを
反時計回り
30°回転



(肉眼観察結果 深度108.71m)

- ・ 肉眼観察では、礫質粘土状部は軟質であるが、周囲との境界面は波打ち直線性に乏しい。また、褐色汚染が顕著で、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が不明瞭になっているが、上端側は褐色部の境界が漸移的で直線的に乏しい。これらのことから上位に分布する変質したカタクレーサイトと同質のものが酸化汚染している部分であると判断した。

(観察位置)

- ・ 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面βに沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面βは最新活動面

(薄片観察結果)

- ・ 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められなかった。
 - ・ 断層面に沿った帯状の粘土状部は熱水変質脈の延長上に認められる。
 - ・ 丸みを帯びた岩片が認められない。
- ・ 薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。
 - ・ 角ばった岩片が多い。
 - ・ ジグソー状の角礫群が認められる。
 - ・ 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの詳細部をカタクレーサイトであると判断した。



(総合評価)

- 当該破砕部については、以下の理由からカタクレーサイトであると評価した。
- ・ 肉眼観察で確認された礫質粘土状部は、その特徴から変質したカタクレーサイトであると判断した。
 - ・ 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴からカタクレーサイトであると判断した。

断層ガウジ・ 断層角礫の有無	断層ガウジ・ 断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・ 変形構造 *
無	-	-

*:断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

・深度8.51～8.66mの「粘土混じり岩片状」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

・深度8.66～8.69mの「粘土質礫状」と記載の箇所については、軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

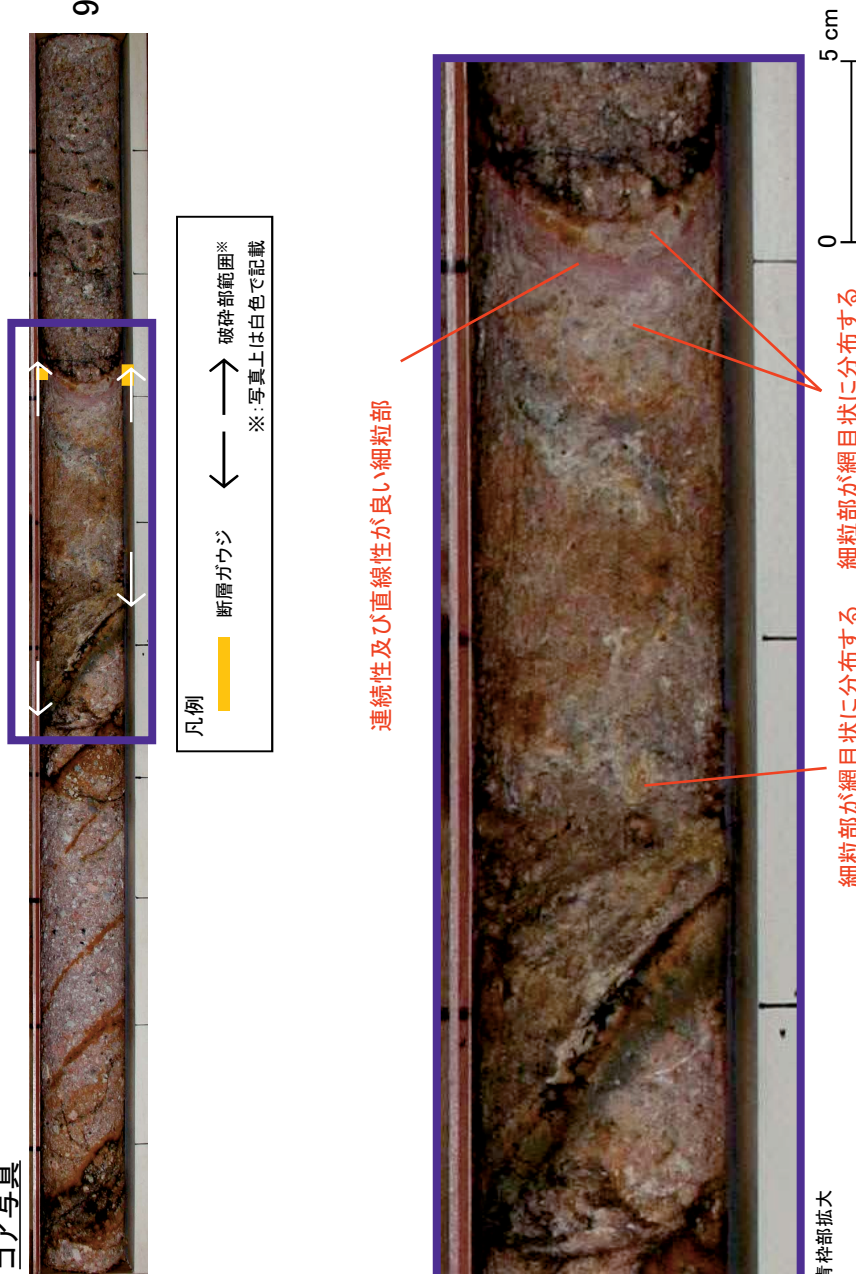
・深度8.69～8.70mの「粘土状」と記載の箇所については、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

・深度8.70～8.71mの「粘土質礫状」と記載の箇所については、軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

ボーリング柱状図

- 8.51～8.71m：破砕部
- 8.51～8.66m：粘土混じり岩片状部 (Hj)
 上端55°でほぼ直線的にシャープに、下端50°でやや不明瞭に波打ちながら連続。径5mm前後の原岩組織が消滅した軟質化～粘土化岩片と、岩片間を網状に分布する幅1～2mmの軟質な淡黄色粘土脈からなる。8.51～8.54mは粘土分が多い。淡黄～にぶい橙色を呈する。
- 8.66～8.69m：粘土質礫状部 (Hb)
 上端50°でやや不明瞭に、下端60°でやや波打って連続。径2～3mmの石英粒と径5mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片からなる。軟質。にぶい黄色を呈する。幅25～30mm。
- 8.69～8.70m：粘土状部 (Hc-1)
 上端60°でやや波打ち、下端60°で直線的に連続。径1mm以下の石英粒を少量含む。軟質。明赤灰色を呈する。幅3～8mm。
- 8.70～8.71m：粘土質礫状部 (Hb)
 上端60°で直線的に、下端65°でほぼ直線的にシャープに連続。径1～2mmの石英粒と径3～5mmの粘土化した花崗斑岩の岩片からなる。軟質。にぶい黄橙色を呈する。幅3～10mm。

コア写真



凡例
 断層ガウジ
 破砕部範囲※
 ※:写真上は白色で記載

連続性及び直線性が良い細粒部

細粒部が網目状に分布する
 細粒部が網目状に分布する

・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

コア写真

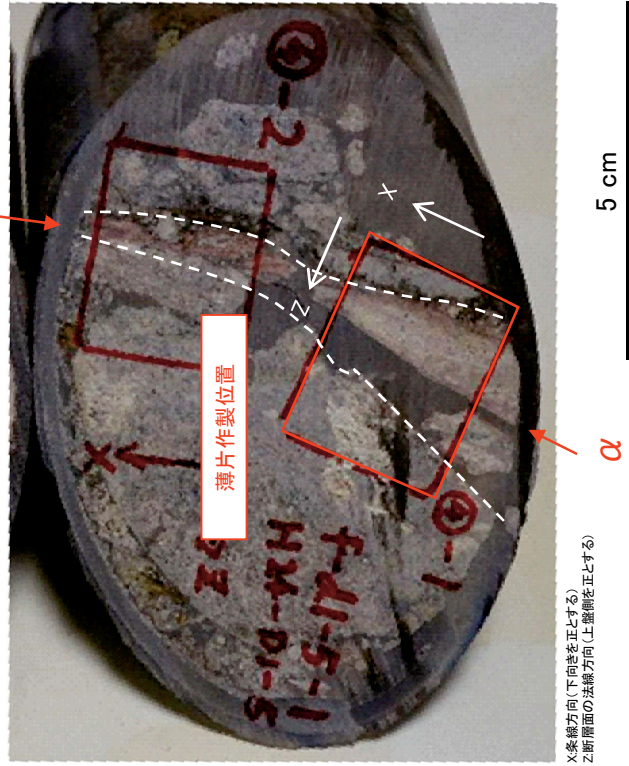
※断層面 α は最新活動面



凡例

- 断層ガウジ
- 断層面
- 破碎部範囲※
- ※:写真上は白色で記載

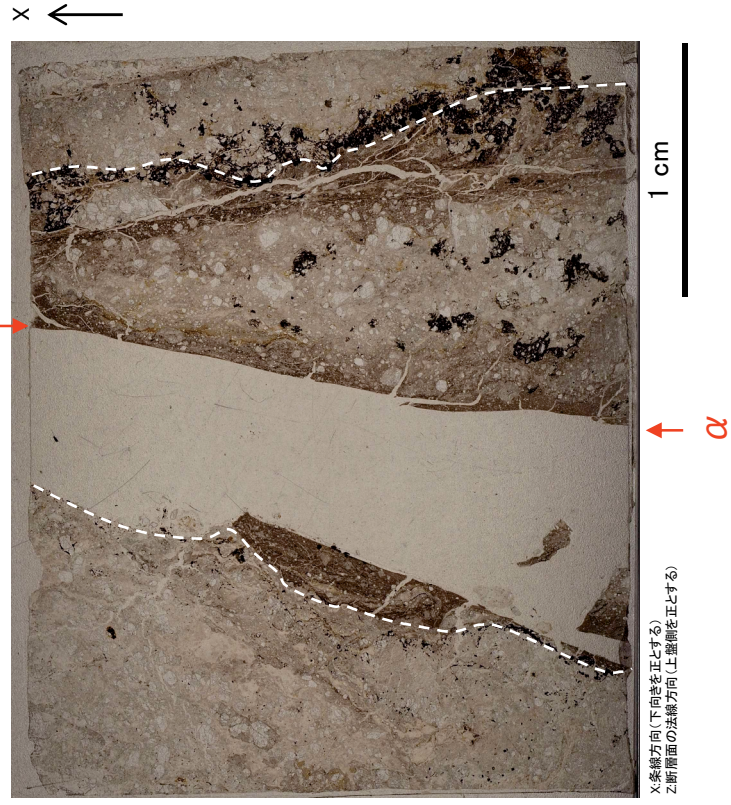
薄片作製位置写真



凡例

- 断層面
- 肉眼観察で相対的に細粒化が進んだ範囲※
- ※:写真上は白色又は黒色で記載

薄片全景写真(単ニコル)



X:糸線方向(下向きを正とする)
Z:断層面の法線方向(上向きを正とする)